

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定 (実施結果))

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価 (3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒の希望する進路実現に定めるため、共通教科・科目を柱に単位制の趣旨をいかした教育課程編成を行う。 ②生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、主体的に学習する態度を養うことをめざした授業改善に取り組む。	①単位制の特徴をいかし、外部機関と連携した実践力向上講座を設定する。 ②アントレプレナーシップ教育を導入し、生徒が自ら課題を発見し解決する力を育む。	①夏季休業中に英語及びプログラミングの実践力向上講座を設定する。 ②アントレプレナーシップ教育に基づき、総合的な学習の時間の活動内容を再構築する。	①外部機関と連携した実践力向上講座を設定できたか。 ②総合的な学習の時間に効果的にアントレプレナーシップ教育を導入できたか。	①専門学校と連携して夏季休業中に「英会話」「プログラミング」の実践力向上講座を開講した。併せて単位認定の制度を整備した。 ②起業家による講演を聞き自らの将来についての考えや目標をまとめ、その内容を発表する機会を持った。効果的に導入できた。	①「英会話」「プログラミング」等の校外講座の充実を図る。いかに受講者を増やしていくかが課題である。 ②新学習指導要領への移行に伴って総合的な探究の時間が先行実施されるため、探究活動の方法・内容を検討する必要がある。	(保護者) 校外講座は効果が期待できる。受講対象を拡げてほしい。(学校運営協議会) ・探究型の学習活動の拡充を望む。 ・プログラミング教育の視点からの教育活動の充実を望む。	①「英会話」「プログラミング」の実践力向上講座を開講し、単位認定できたことは成果である。継続・拡充が課題といえる。 ②アントレプレナーシップ教育を導入できたことは成果である。今後は総合的な探究の時間の方法・内容を検討する必要がある。	①継続・拡充に向けて専門学校との連携・協議を深めていく。 ②プログラミング教育研究推進校に指定されることに合わせて、総合的な探究の時間の方法・内容の検討を進める。
2 生徒指導・支援	①豊かな心と、健やかな体を育むきめ細やかな教育を推進する。 ②生徒の状況把握と個々に対応した教育相談の充実を図る。	①自他ともに命を大切にすることを育成する。 ②課題を抱える生徒に適切に対応するため、個々の教員の意識・スキルを高める。	①様々な課題を持つ生徒をサポートするために組織的な取組を実施する。 ②児童虐待について、早期発見・初期対応に関する研修を実施する。	①スクールソーシャルワーカーの活用など、ケース会議の取組を成果に結びつけられたか。 ②児童虐待について、早期発見・初期対応に関する研修を実施できたか。	①支援の必要な生徒について定期的にケース会議を開催し、情報を共有した。また特別支援学校と連携して指導方法を検討し実践した。 ②児童虐待防止に係る研修会を開催して職員の理解を深め、行動につなげた。	①支援の必要な生徒の情報共有をもとに組織的な指導を継続する必要がある。 ②校内の生徒支援方針に基づいて支援を進めるとともに、関係機関と連携して支援・指導する体制づくりを進める必要がある。	(保護者) 手厚い支援体制がよく機能している。維持・継続を望む(学校運営協議会) 生徒の思いを受け止めて丁寧に聞き支援を進めている。	①ケース会議を繰り返し実施することで生徒情報の共有ができた。特別支援学校との連携を深めることが課題である。 ②職員が児童虐待防止について理解を深め、生徒の支援に取り組んだことにより児童相談所との連携ができた。	①今後はより一層、特別支援学校のセンター機能を活用していく。 ②児童虐待のみならず、いじめの問題等についてもきめ細かく丁寧に取り組みを進めていきたい。
3 進路指導・支援	入学から卒業までのキャリア教育の体系化により、生徒のキャリア発達を支援し、進路指導の充実を図る。	生徒自らがキャリアについて考え、目標に向かって学習できるよう支援する。	アントレプレナーシップ教育の導入及び個別面談の充実により、意識付け・動機付けを繰り返し、生徒自らが目標を設定させる。	アントレプレナーシップの導入、年間を通じた個別面談の実施により、個別指導計画を充実できたか。	起業家に求められる資質や困難を克服するために必要な能力などの理解を促し、将来の目標設定のための動機づけができた。	社会から求められる能力を培うため、主体的に自らのキャリアを考えさせるような指導を検討する必要がある。	(保護者) 学力向上とともに、自らキャリアを考えさせる取組を継続してほしい。(学校運営協議会) 将来に対する意識づけや学習への動機づけにより生徒のキャリア意識を高める取組を進めてほしい。	アントレプレナーシップ教育の導入及び個別面談の充実により、意識付け・動機付けを繰り返し実施することができた。生徒が主体的に目標設定できるよう粘り強く指導を継続する必要がある。	アントレプレナーシップ教育及び個別面談による意識付け・動機付けを継続しつつ、様々な角度から生徒の意識を高めていく。
4 地域等との協働	生徒の社会参画の意欲向上に努め、保護者、地域住民との協働を推進して開かれた学校づくりを進める。	学校運営協議会を通じて、保護者・地域の方に本校の特色や教育活動についての理解を深めてもらう。	学校運営協議会のテーマコミュニティとしての面を深めるため、組織編成を改善する。	学校運営協議会を効果的に改組できたか。	学校運営協議会をテーマ型に改組した。協議会での議論をもとに、教育活動・教育施設等の充実につなげた。	これからの時代に求められる力の育成を意識し、教育活動の効果をもつ学校運営について検討を進める必要がある。	(保護者) 教育活動、施設の充実に繋げてほしい。(学校運営協議会) 外部教育力を活用した教育活動の拡充を検討してほしい。	テーマコミュニティの導入が円滑に進んだ。今後は外部教育力を活用した教育活動の拡充を検討していく。	学校運営協議会の委員のみならず、コンソーシアム等を広く活用していく。
5 学校管理 学校運営	安全で信頼される学校づくりを目指し、指導体制・管理体制の整備を進める。	事故・不祥事防止について職員の意識を高める。	個人情報を含む書類の管理環境を改善するとともに、職員の意思疎通を徹底する。	出席簿・教務手帳等を一元管理し、個人情報の持ち出しについて件数を減らせたか。	出席簿・教務手帳等重要書類を一元的に管理した。テスト答案等の個人情報の持ち出し件数を大幅に減らした。	個人情報の活用・管理に係る職員の意識を高めるため組織的な事故・不祥事防止の取組を継続する必要がある。	(学校運営協議会) 生徒の実態に沿って学校運営目標を設定し十分に成果を上げている。	書類等の持ち出しに関しては個人情報の管理を徹底することができた。ICT関連の管理を進めたい。	無線LANやクラウドの管理について研究を進めていく。